

令和 5 年度 学校評価シート

青梅市立霞台小学校

項目	評価	分析結果	改善策	学校関係者 評価記入欄		学校の見解と今後の 方向性
				評価	コメント	
①子供たちは、楽しく学校に通うことができている。	A	保護者の肯定的意見が 94.3%と、昨年度より 4.1%増えた。 児童の肯定的意見も 95.5%となっている。	さらに学校に楽しく通えるように、教育活動を工夫していく。	A	・子供たちとのやり取りから、好意的に学校に通えている子が多いと感じます。 ・登下校時に元気に通う児童が見られます。	・学校内では、大半の児童が元気に楽しく活動ができている。 ・悩みを抱える児童の早期対応をするために、校内委員会を活用していく。
②学級の授業は、充実していると感じる。	A	保護者の肯定的意見が 95.7%と、昨年度より 6.6%増えた。 授業の内容は分かると回答している児童は、95.8%だが、学習内容はあまり定着していない。	学習活動をさらに充実させていく。 学習内容が定着するよう、ICT を活用し、授業改善に努めていく。	A	・素敵な授業は先生方の前向きな努力の賜物だと思います。 ・本年度は学校の授業での児童の様子を見ることができました。集中していましたよかったです。	・お互いに授業を見合い、授業改善に努めた。 ・ICT は全クラスで毎日使えるようになってきている。 ・今後も授業の充実のため校内研究を進めていく。
③子供たちは、挨拶やマナー・生活習慣をしっかりと身に付けている。	B	保護者の肯定的意見が 86.5%と、昨年度より 2.7%減少した。 児童の肯定的意見は 87.1%で、学年が上がるごとに低下している。	相手に伝わる挨拶を心掛けるように指導し、挨拶運動を継続していく。 家庭へも更なる啓発をすすめていく。	B	・挨拶がよくできています。 ・自分から他者に声をかけることができる子が増えていると思います。 ・授業参観時に挨拶をしてくれた子がいました。	・今後も「あじみこし」の取組を全校で推進していくことにより、時や場所にに応じた挨拶やマナー・生活習慣の徹底を今後も図っていく。 ・教職員もさらに意識して取り組んでいく。
④子供たちは、安全を意識して歩いたりヘルメットを着用して自転車を運転したりしている。	B	保護者の肯定的意見が 80%と、昨年度より 2%増えた。 児童の肯定的意見は 93.3%で保護者の意識との開きがある。	交通安全教室やセーフティー教室でヘルメット着用の周知徹底を更に強く行っていく。	B	・放課後のヘルメット着用は以前より増えています。 ・自転車にヘルメット無しで乗っている子も見かけます。	・今後も、子供たちの命を守るため、ヘルメット着用を周知徹底し、安全への対応ができるようさらに徹底していく。
⑤学校は、学校だより・HP・メール等を通じて、学校の情報を伝えている。	A	たくさんの保護者、地域の方から 96.5%の肯定的なご意見をいただいている。	今後も学校情報の発信に努め、更に開かれた学校を目指していく。	A	・人気の HP。 ・HP を活用しての情報発信が素晴らしい。保護者の方々に喜ばれていると思います。 ・HP の情報回数・量は十分だと思います。	・HP を活用した学校情報の公開が一層推進できた。今後も、さらに充実した内容を伝えられるように努力していく。 ・安心メールの活用、GoogleForm の利用も進め、情報共有できるようにしていく。

⑥学校は、学年日より、学級日より・HP等を通じて、子供たちの学校生活の様子を伝えている。	A	保護者の肯定的意見が 95%と、昨年度より 2%増えた。 ホームページを活用した情報発信が学校の特色として認知されてきた。	来年度も学校公開を学期に 1 回、参観保護者会を学期に 1 回行う。学級だよりの発行やHPの更新も行い、学校の様子を定期的に保護者や地域の方々に伝えていく。	A	・人気の HP。 ・ブログでの情報発信を通して子供たちの様子をうかがい知ることができるので、ありがたいです。	・今年度は、学校公開、授業参観・保護者会でも、情報交換できた。 ・今後は、HP、お便り等で、どの学年でも知りたい情報をさらに発信していく。
⑦子供たちは、家庭学習の習慣が身に付いている。【低学年は 30 分・他学年は学年×10 分】	B	低学年は家庭学習の時間が目標時間に達している児童が多いが、学年が上がるにつれて達成率が下がっている。	家庭学習の習慣化に向けて、児童及び家庭に意義を周知していく。家庭学習を習慣化していきたい。	B	・タブレット端末等の導入等もあり、児童の授業の環境も変化し、一層保護者の理解・協力が必要と思われます。 ・継続的な啓発活動をお願いします。	・家庭学習の習慣が身に付いている児童もいるが、全体的には不十分な現状が続いている。 ・自主学習ができるよう家庭学習の定着を目指す。
⑧学校は、毎週火曜日・水曜日のスタディタイムで既習事項を確認して、子供たちに算数の基礎・基本の定着を図る努力をしている。	A	スタディタイムを利用し、教材の開発等工夫して指導している。算数の基礎・基本が定着していると認識している保護者は 89.8%と、昨年度より 4.8%増えた。	引き続き 15 分間の短時間学習でタブレット端末を活用したワーク等の活用を行う。	B	・学校側の努力を評価したいと思います。 ・非常に良い取り組みだと思います。何事も基礎・基本は大事です。基礎・基本が理解できれば、主体性が培われます。	算数の基礎・基本の定着のためスタディタイムに取り組んできたが、十分な成果にはなっていない。 ・低学年の時数を増やし、基礎・基本の定着を図る。
⑨学校は、外遊びの励行、大縄週間の取組を通して、子供たちの体力向上に努めている。	A	中休みの外遊びでは、児童は元気いっぱい校庭で活動している。保護者の肯定的意見は、90.6%である。	体力向上に向け、体育の在り方や、中休み、昼休みの時間を充実させていく。	A	・中休みの様子から、気分転換としても有効であると感じます。 ・外遊びの励行、大縄週間の取組は、体力向上・精神面でもいいと思います。	・体力の状況を把握し、全校・学年・クラスでできることを考え、体力向上を目指す。 ・体育部を中心に、体力向上のための場を校庭に設置して、体力向上を図っていく。
⑩学校は、学級活動やいじめアンケートの取組など、学校全体でいじめのない学校づくりを進め、対応している。	A	各学期のいじめに関する授業や年 4 回のアンケート実施している。いじめ対策に対する保護者の肯定的意見が 93.5%と、昨年度より 9.3%増えた。	今後も全教職員でいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて情報を共有し、組織的に対応していく。	A	・いじめは無い方がいいです。 ・週 1 回全職員による会合でのいじめ対応は大いに評価します。 ・気になることがあれば報告します。 ・些細なことでも事象をとらえて指導してください。	・年 4 回のいじめアンケートや学期ごとのいじめに関する授業を通して、いじめの未然防止に努めている。 ・今年度、大きないじめ案件はなかった。 ・普段の児童の把握をよりできるよう、また、児童の様子の情報交換が密にできるよう、教員間でより意識していく。